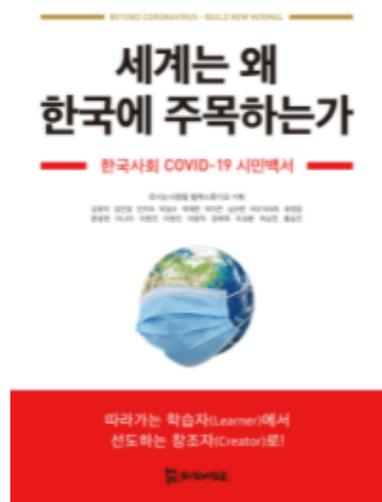


【第三回実心実学読書会 プログラム】

- 14:00-14:10 開会あいさつ、趙晟桓さん紹介（片岡龍）
- 14:10-14:30 参加者自己紹介（一人1分 ※デザート、お宝自慢など）
- 14:30-15:00 小倉さんコメント（主に趙論文）
- 15:00-15:20 趙晟桓さんリプライ
- 15:20-15:30 休憩
- 15:30-16:00 朱琳さん発展コメント（主に鶴見論文）
- 16:00-16:55 全体討論
- 16:55-17:00 閉会あいさつ、次回予告（片岡龍）



タイトル：『世界はなぜ韓国に注目するのか』

—韓国社会COVID-19市民白書—

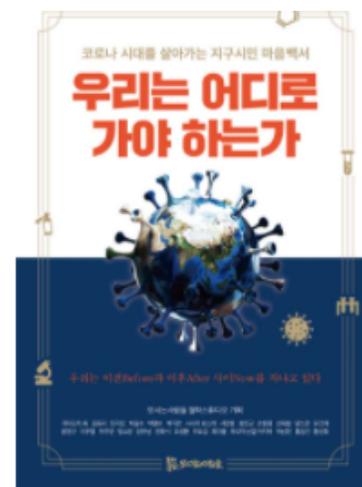
原題：『세계는 왜 한국에 주목하는가 -한국사회 COVID-19 시민백서-』

刊行日：2020年04月30日

企画者：モシヌンサラムドゥル哲学スタジオ（趙晟桓ほか）

出版社：図書出版モシヌンサラムドゥル（[도서출판 모시는사람들](#)）

この本は、コロナ19によって惹きおこされた「ニューノーマル（新常态）」にたいする20篇の診断書である。この診断作業に参加した著者は、20代の大学生から50代の平和運動家にいたるまで、多様な世代にわたっている。発信地も韓国をはじめ、日本・中国・スペインなど各国に跨がり、内容はコールセンター労働者の生から近代文明の診断にいたるまで幅ひろい。分野も多彩で、政治をはじめ、メディア・医療・モラル・宗教・映画・哲学などを網羅している。その意味で、「コロナ19地球市民白書」ないしは「コロナ19地球人文学」と言える。したがって、この本は読者に、コロナ19にたいする包括的かつ深みのある情報と分析を提供すると信じる。



タイトル：『我々はどこへ向かうべきか』

—コロナ時代を生き抜く地球市民こころ白書—

原題：『우리는 어디로 가야 하는가』

—코로나 시대를 살아가는 지구시민 마음백서—

刊行日：2020年10月25日

ページ：368頁

企画者：모시누느스라무두르 철학 스튜디오（趙晟桓ほか）

出版社：圖書出版모시누느스라무두르（[도서출판 모시는사람들](#)）

ISBN：979-11-6629-005-3 (03300)

コロナ時代を迎えコロナ19に関する本が溢れかえっている。その多くの書籍のなかで本書が持つ特徴の一つ挙げると「省察」であると言えよう。コロナ19が我々に語らんとしているのは何か、そして我々はこの先どうすべきなのかについて考える時間を設けたかった。特に第5部では「青年の声」を込め、未来世代の考えと悩みを傾聴する場をつくった。彼等こそこの先人類と地球の未来を担っていく「地球世代」だからである。

第4回 実心実学読書会 予告

日時：

7月23日（金、スポーツの日、東京2020オリンピック開会式日） 13：30～17：30

作品：

板垣雄三「時評 日本学術会議問題2020がわれわれに投げかける課題（その2）」
（『歴史学研究』2021年7月号）

コメンテーター：本郷隆盛（宮城教育大学 名誉教授）、片岡龍（東北大学 教授）ほか